

| | |
|------|---|
| 事業名 | 国内ブリ類・マダイ・マグロ用ワクチン（イリドウイルス、 α 溶血性レンサ球菌症）の開発・改良 |
| 実施者 | 共立製薬株式会社 |
| 実施期間 | 令和 4 年 11 月～7 年 10 月 |

背景

我が国の養殖魚のうち、ブリ類（ブリ、カンパチ）、マダイ、クロマグロは重要な養殖魚として位置づけられている。養殖においては、細菌やウイルスによる感染症による死亡が起こることで生産へのダメージを生じており、ワクチンによる予防が重要な対策として位置づけられている。水産においても、昨今、抗菌剤使用による薬剤耐性菌の出現も問題となっており、薬剤の使用を低減するためにも効果の高いワクチンの開発のスピード化が求められている。そのような状況下で、動物用医薬品メーカーである共立製薬(株)は、国内ブリ類、マダイ、クロマグロのうち、被害が大きな α 溶血性レンサ球菌症及びイリドウイルス病のワクチン開発・改良に取り組んだ。

目的

ワクチンの開発・改良は、以下の三つの課題を上げて取り組んだ。

課題 1（クロマグロ用イリドウイルス、レンサ球菌症ワクチン（Ⅰ型、Ⅱ型））

課題 2（ブリ類用レンサ球菌症ワクチン（Ⅱ型、Ⅲ型）、イリドウイルスワクチン改良）

課題 3（マダイ用イリドウイルスワクチンの改良）

結果

養殖場とも連携し、共立製薬(株)で作製した試作ワクチンの魚への安全性・病気への予防効果（有効性）を調べた。その結果、病気の発生を低減しワクチンの効果があることが認められた。それらの結果をまとめ農水省の動物用医薬品としての審査を受け、事業 3 年目の 2025 年 5 月にブリ類用 α 溶血性レンサ球菌症ワクチンの製品化を達成した。

なお、クロマグロ、マダイ用のワクチン開発・改良は事業期間の 3 年間では製品化まで至らなかったため、継続検討を行い、近年中に製品化を目指す。

養殖業の成長産業化への効果

水産用ワクチンの使用により、養殖魚の安定生産、及び薬剤耐性菌の出現低減に寄与できる。また、魚を健康的に育てることにより、安全・安心な水産物の生産が可能となる。

参考（※報文、参考資料や会社サイトの紹介、連絡先、用語解説など）

本事業により製品化した「ピシバック注レンサ α 3oil」の当社 Web サイト

https://www.kyoritsuiseiyaku.co.jp/products/detail/product_20227.html